

“Open data work: understanding open data usage from a practice lens”

「オープンデータを機能させる：実践的視点からオープンデータの使用法を理解する」
Erna Ruijer, Stephan Grimmelikhuijsen, Jochem van den Berg, Albert Meijer

Abstract

近年、世界中の行政が公開するプラットフォーム上のデータ量が、爆発的に増加している。オープン・ガバメントのデータ・プラットフォームは、透明性の向上及び参入の促進を目指している。こうした政府のプラットフォームへの期待は高いにも関わらず、その潜在能力は未だ最大限発揮されていない。研究者らはオープンデータの利活用に係る技術的及び質的な障壁を特定した。こうした研究は役に立つ一方で、研究上の論点において、オープンデータの価値はその背景や関係する人々にも依るということは認知されていない。

本研究では、特定の状況下において、政府と利用者の相互作用を通じて経時的に現われる社会構造として、オープンデータの利活用を実践的観点から分析した。これにより、オープンデータ・プラットフォームの発達における文脈や行為者の役割について理解を深める。本研究は、公務員及び市民が協働して、オープンデータ・プラットフォームを用いて公共の問題の解決法を見つけるという、イノベティヴ・アクション・リサーチに基づいている。この手法は、オープンデータを機能させるための内部的視座を与える。

結論として、オープンデータを理解するための共通認識となる枠組みや、高い質のデータセットの不足により、協働的な学習のプロセスが妨げられ得ることがわかった。本研究の文脈を重視するアプローチは、政府中心の実施よりも、利用者との豊かな相互作用に基づいて作用するオープンデータの実践の必要性を強調する。

Points for practitioners

本研究は、人々がオープンデータを用いて何をするか、どのような影響を及ぼすか、そしてオープンデータ利活用に必要とされる技能、知識、技術について何を学び取れるかを示すことにより、オープンデータを機能させるための内部的視座を与える。これにより、市民による活動に支えられる実践を育てるために、オープンデータに関する協働的な学習のプロセスがいかに重要かを示す。

最後に、本研究はオープンデータの現行の（デジタルな）相互作用が、どのように共通の理解や意味のある実践に帰着するかを示す。